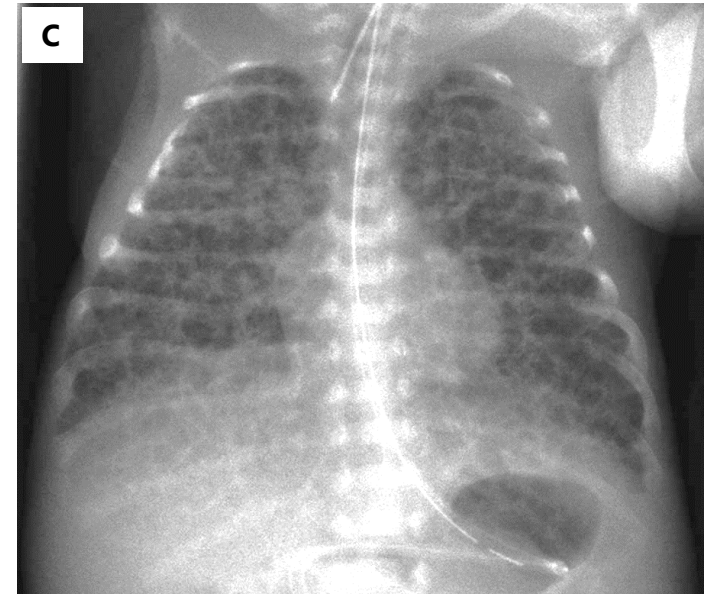
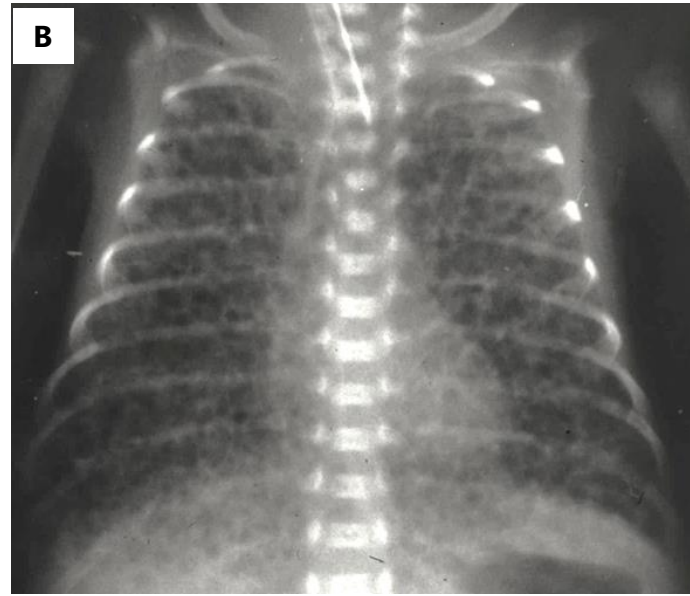


# 新生児慢性肺疾患 厚生労働科学研究班分類（2023）

病型 <sup>a)</sup>	病理学的CAM <sup>c)</sup>	胸部単純X線写真正面像上のBubbly/Cystic所見（日齢28以内） <sup>d)</sup>
I (s) <sup>b)</sup>	-	+
II (s) <sup>b)</sup>	-	-
III (s) <sup>b)</sup>	+	+
IV (s) <sup>b)</sup>	+	-
V	分類不能 <sup>e)</sup>	

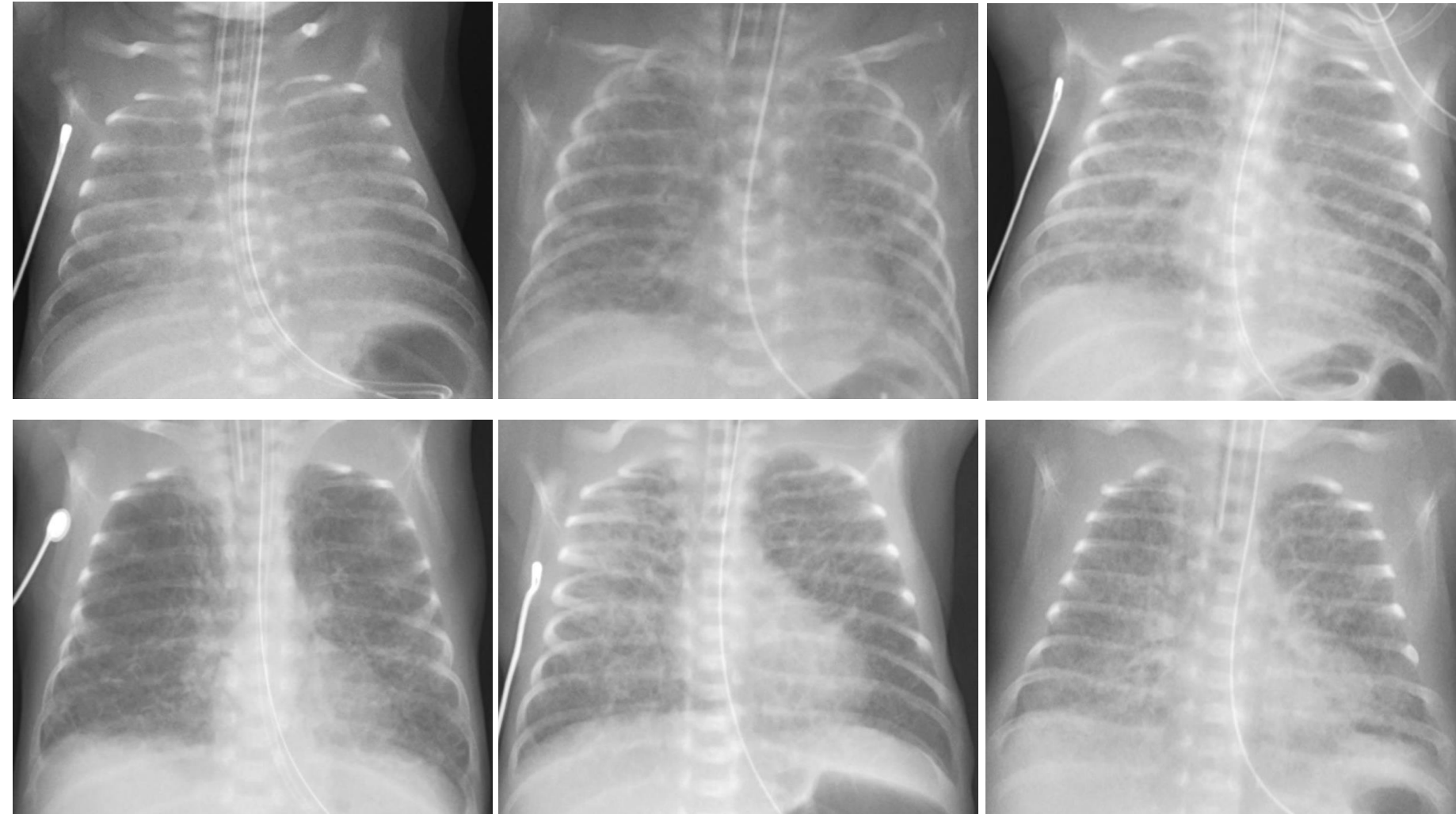
- a. 病理学的絨毛膜羊膜炎(CAM)、胸部**単純X線写真正面像**上のBubbly/Cystic所見、Small-for-gestational age(SGA)の3つの項目を用いて5つに分類し、病型を表記
- b. SGAは出生体重が10パーセントイル未満のものとし、SGA(+)の場合には病型に「s」を付ける。例) SGA(-)の場合はI、II、III、IV、SGA(+)の場合は、I s、II s、III s、IV sと表記する。
- c. CAMは、病理学的診断（Blanc分類またはRedline分類）に基づいたものとし、Stageは問わない。
- d. X線所見の変化は日齢28以内に出現したものとし、**肺を正中線で左右に分け、さらに各々を上下に分割して計4つの区域に分け**、そのうち3つの領域において、びまん性の泡状/嚢胞性領域（直径1.0～10.0mm）と索状影が認められるものとする（**胸部単純X線写真正面像**を参照）
- e. 胎盤病理検査の実施が望ましいが、病理学的所見が不明の場合は、**胸部単純X線正面像**所見の有無に関わらず、V型に分類する。

## 参考) 胸部X線におけるBubbly/Cystic所見



- A) Arai H, et al. *Pediatr Int.* 2019;  
*Acta Paediatr.* 2020**
- B) Namba F, et al. *Pediatr Int.* 2016**
- C) Hirata K, et al. *Arch Dis Child Fetal Neonatal Ed.* 2015**
- D) Muehlbacher T, et al. *Children.* 2021**
- E) Morris S. *Current Paediatrics.* 2003**

## 参考) Bubbly/Cystic所見なし例



- **上段左、上段中、上段右：** 透過性の低下はあるが索状影やBubbly/Cystic所見はない
- **下段左、下段中：** 一部索状影とBubbly/Cystic所見を肺上部領域に認めるが、3/4領域には満たさない
- **下段右：** 一部索状影を認めるが、肺下部領域は透過性低下が中心であり、3/4領域を超えて索状およびBubbly/Cystic所見は認めない。